

様式 4

令和 2 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

学校長 上 原 正 樹

評 価 日	令和 3 年 2 月 1 8 日 (木)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 ○自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進について ・遅刻が多いのが気になる。特に 3 年。社会にできれば遅刻は、人に迷惑をかけることになり、心に余裕がなくなる。社会は厳しいです。 ・鳥取湖陵高校出身の鳥取大学生は、挨拶が良く出来、丁寧な報告をしてくれるなど、感心している。挨拶は大人側がしっかりと取り組む事で生徒も変わってくる。大変な指導だが、頑張って欲しい。 ・校則には生徒の意見が取り入れられていますか？生徒が心を開き、やる気になる指導として生徒自身がルールを作るといった「自治」に取り組んではどうか。 ○協同の学びで自他を高める教育の推進について ・教育相談室では昼食時の利用などもあり、ひとりひとりを大切にした指導がなされていると感じる。 ○業務改善について ・大学では、コロナ禍のリモート対応に多くの時間を割かれている。今後の DX 教育などを見据えて、先生方の限られた時間が有効となるよう、先生方を支える人材と予算の確保を是非お願いしたい。 ・湖陵高校の時間外勤務は減少しているが、実態はどうか？ (2) 説明・公表について ・HP での情報発信は、HP を見る人にしか伝わらない。		・3 年生の遅刻平均回数は 3 回弱。進路決定後の秋より欠席・遅刻が増加傾向である。一方、1 割強の生徒は 3 年間皆勤でもある。しっかりと指導したい。 ・先日も生徒会執行部が生徒アンケートで学校生活の要望を尋ねたところ。今後も執行部が中心となって、自治活動を進めてくれると期待している。 ・将来の自立を目指し、生徒の現状を良く理解しながら、引き続き対応したい。 ・令和 4 年度入学生より各自端末購入を受け、昨年度以上に ICT 活用に特化した校内研修・授業研究会を実施。先生方が個人視聴できる研修動画も導入した。今年度末には全教員に端末を整備予定。 ・コロナ禍で部活動が制限されたことが、時間外勤務減少の要因の一つ。 ・新たに鳥取湖陵 YouTube チャンネルを開設し、学校の取組を動画にして発信している。閲覧数が伸びないのが悩みである。

2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ・地域の方が楽しみにしていた「味噌造り」が中止となり残念であるが、この状況では仕方ない。今後は、リモートでの双方向のやりとりに困っている地域の高齢者を対象とした講習会など、高校で学んでいることを地域で是非活かして欲しい。 3. 取組改善のための提言 ○令和4年度導入のコミュニティスクールについて ・地域は小学校区と中学校区の両方のコミュニティスクールに参加せざるを得ないため、多忙となっている。これに近隣高校のコミュニティスクールが増えれば、益々多忙となる。 ・コミュニティスクールとは学校を核とした地域作りが究極の目的である。県立高校にとっての「地域」とは何なのか、県教育委員会から何らかの示唆があっても良いし、あるべきだと感じる。 ・産業や地域との連携について、鳥取湖陵高校には今までの蓄積がある。これを足がかりにして、コミュニティスクールを進めていけると感じる。 ・既存のコミュニティスクールでは、いつも声を上げることの出来る方が委員に選任されているように感じる。声を出しにくい方の意見を聴く視点も大事だと思う。また、学校は外部の声に萎縮しがちなので、学校のポリシーをしっかり守りながら、取り組んで欲しい。	・高校での学びを地域社会で活かす経験は、達成感・自己有用感などを高めることが出来、学習の励みになっている。 ・これまで取り組んできたように、地域社会への貢献を念頭に置き、取組を進めたい。
---	--